SUPERな移動スーパー

令和 元年 月 日
大田小学校6年
八木誠

のぞいてみよう 移動販売の世界

毎週決まった時間になるとどこからか聞こえて来るメロディー。大田市内を走る移動販売車。それが、「とくし丸」です。

ぼくは、その存在は知っていましたが、どのように地域の人々の役に立っているのかは知りませんでした。

そこで、「とくし丸」移動販売を取材させていただき、移動販売のヒミツに迫りました。

取材に協力いただいた
矢野目（やのめ）さん
出身地：茨木
とくし丸歴：3年

商品の積み込みは、朝八時から始まります。その日行く先のお客様の要望に応じて、積む商品を矢野目さんが選びます。

生鮮食品や賞味期限の短い物は、毎日入れ替えをし、お客様に新鮮な物をお届けしている。

お肉や刺身、お豆腐などは、冷蔵室に入れてしっかり冷やされながら運ばれる。

アイスはクーラーボックスに。塩あめやきし棒とともに夏の人気商品だ！

おいしそうなそうざいも豊富。お昼ご飯に買われる方も多かった。

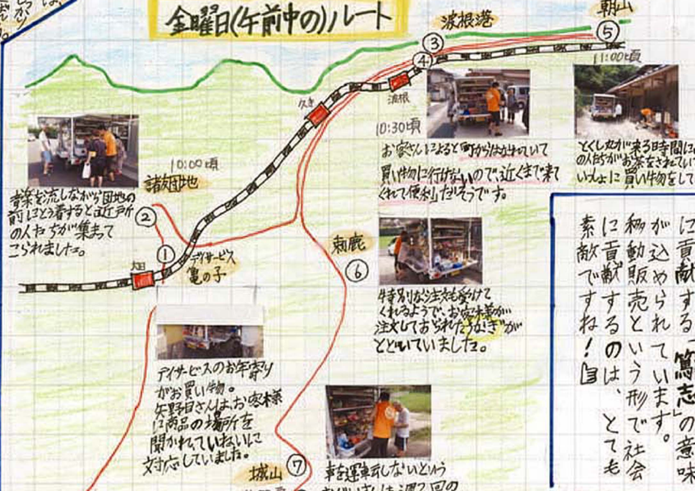
積み込みの工夫

よく売れる商品を手前に、重い物は下に。見つけやすさと取り出しやすさを考えて、商品を積んでいる。

電池やトイレットペーパーなどの日用品から生鮮食品まで 1200〜1300種もの商品をのせて、準備完了!!

矢野目さんに大田市内の3つのルートを週に2回ずつ回られている

金曜日(午前中の)ルート



お客さんによると町からはなれていて買い物に行けないので、近くまで来てくれて便利だそうです。

とくし丸が来る時間に近所の人たちがお茶をされていて、いっしょに買い物をしておられました。

音楽を流しながら団地の前にとう着すると近所の人たちが集まってこられました。

デイサービスのお年寄りがお買い物。矢野目さんは、お客様に商品の場所を聞かれていないかに対応していました。

特別な注文も受けてくれるようで、お客様が注文しておられたうなぎがとどいていました。

車を運転しないというおじいさんは、週2回のとくし丸で生活に必要な物を購入しているそうです。

1日に平均25〜30ヶ所を回られているそうです！

午後もまだまだ配達はつづく…。

93才のおばあさんは、「家の中に荷物を運んでくれるのでありがたい」と言っておられました。お年寄りも助かるサービスですね！

なぜ『とくし丸』？

「買い物に行けない人を救う移動スーパー『とくし丸』」。そんな「とくし丸」の、名前の由来を紹介します。

まず、創業地の「徳島」、そして、社会事業や福祉に貢献する「篤志（とくし）」の意味が込められています。

移動販売という形で社会に貢献するのは、とても素敵ですね！

編集後記

移動販売を利用するお客さんは、独りぐらしのお年寄りが多いそうです。それは、車を運転しなかったり、住んでいる場所が町から離れていたりして、いわゆる「買い物難民」化しているお年寄りが増えているからです。

今、高齢者ドライバーによる事故の問題もあり、車の免許を返納しようとしている方も多いですが、返納すると買い物に行けなくなってしまいます。それを解決するのが、移動販売であり、自宅にいながら買い物の楽しみも味わえることを、今回取材させていただいた利用客のみなさんも喜ばれていました。

この新聞作りを通して、移動販売の便利さと、地域にとっての必要性を、強く感じました。

ぼくもちょっとお手伝い

矢野目さんに聞きました。

Q. なぜ移動販売を始められたのですか？

関東で転職を考えていたとき、島根で移動販売を始めると聞き、やってみようと思いました。

Q. やりがいや喜びは何ですか？

お客さんに「ありがとう」や「助かる」と言ってもらえると、すごくやりがいを感じます。

Q. 大変な事は何ですか？

雨や雪、台風の日は、運転にもお客さんにも商品にも気をつかうので大変です。

Q. 矢野目さんの夢は？

今はグッディーに置いてある商品のみを扱っていますが、日用品や衣類など、生活に必要な物すべてがそろうような移動販売にしたいです。

便利と楽しみをお届けし、困っている人々の助けとなる。矢野目さんはまさに地域のスーパーマン!!